

工場見学会報告

機械部会基礎工事用機械技術委員会

機械部会基礎工事用機械技術委員会は、平成 18 年 12 月 7 日（木）に工場見学会を実施しました。

見学先は、午前は J F E スチール株式会社東日本製鉄所、午後は石川島播磨重工業株式会社横浜工場の 2 箇所でした。

当委員会のメンバー 17 名は当日の朝、川崎駅に集合し、まずは午前の部の J F E スチール株式会社東日本製鉄所の京浜地区の拠点である人口島扇島に向かいました。

扇島エリアは巨大な人口島で、原料の受け入れから出荷までの製造工程が一直線に配備され、合理的にレイアウトされている工場でした。

J F E スチールの担当の方に、原料受け入れ岸壁から順に説明をしていただきながらエリア内を見学しましたが、巨大な要塞とも思える製鉄所のスケールの大きさに委員全員が圧倒され通しでした。

転炉では実際に溶解している鉄が、なんとも言いようのない神秘的な光をはなっていたのが印象的でした。また熱延工場では赤く熱せられた鉄の塊が見る見るうちに圧延機で薄くされ、コイルに巻かれていく姿は、硬い鉄のイメージとは違う感覚を感じました。

次に一行は川崎駅から J R 京浜東北線に乗り午後の見学場所の石川島播磨重工業株式会社横浜工場に向かいました。新杉田駅で石川島播磨重工業の担当の方に出迎えていただき、横浜工場の見学が始まりました。

最初に横浜事業所の説明を受けてから研究施設へ向かいました。研究棟では風洞実験施設と耐震試験施設を見学しました。風洞実験施設は環境アセスメントに対応するために、発電所や各種プラントからの排出物の大気への拡散現象や超高層ビルのビル風が近隣へ与える影響など、また、耐風工学に対応するために、橋梁や長大構造物の安定性や強度確認などの実験目的に使用されているそうです。また、この風洞実験機は風の流れだけを制御するのではなく、細かい温度制御も可能と聞き大変驚きました。耐震試験施設では、三次元振動台を用いた耐震試験の説明を受けました。

その後、横浜第二工場を見せていただきました。日本でも有数な大型工作機械が配備された機械工場、機械加工からアッセンブリまでを行っている一環工場でした。工場内には、温度変化による加工誤差をなくすための恒温精密加工室も設置されていました。

1 日で 2 箇所を回る過密スケジュールでしたが、充実した見学会を実施することができました。

最後に親切丁寧に説明して下さった J F E スチール株式会社、石川島播磨重工業株式会社のご担当の方々はじめ関係各位に深く感謝いたします。

（機械部会基礎工事用機械技術委員会）



J F E スチール株式会社東日本製鉄所にて